

コラム

夏の夕涼み

夏、日差しを避けて縁側で夕涼み…こんな経験はありませんか。夏の日差しは、縁側まで射し込んで来ません。伝統的な日本家屋では、南側に軒を出して縁側をつくり、夏の日差しを家の中に入れない工夫がありました。

六月二十一日は夏至。一年で最も昼時間の長い日が夏至です。このときの太陽は、最も高くのぼる南中高度で約77度。この太陽の日射は、軒の高さ2mあれば、軒先から0.4mぐらいまで射し込んできます（高さの0.2倍）。暑さ寒さも彼岸までと言いますが、彼岸の秋分では、太陽の南中高度は約53度、射し込む日射は高さの0.7倍。ですから、この高度30度から53度の暑い日射（高さの0.2倍～0.7倍）を家の中にいれない工夫をすることで、夏の日中でも涼しく過ごすことができます。さらに軒先に「すだれ」を下げたり、グリーンカーテンを育てるのも有効です。

もうひとつ、夏至は日出が早く日没が遅くなるので、昼時間が最も長くなります。その日出や日没の方位は、南中から東・西それぞれに121度、このことから、南に面した縁側には、朝日や夕日が射し込まないことがわかります。真東の日射は朝8時ごろ、真西の日射は夕方5時ごろとなり、その前後では日射が射し込んで来ません。西向きの窓に、西日対策をしっかり考えれば、日射による暑さを避けることができます。

※太陽の高度や方位は

長野県小諸市・緯度36.32度の場合
です。

夏至の太陽は、南中高度で約77度。
縁側には暑い陽光が射し込まず、日差し
の暑さを避けられます。

【文責】佐藤 重



長野県地球温暖化防止活動推進員有志

赤尾興一	有賀宏道	宇野親治	佐藤 重	島川清一
中野昭彦	樋口嘉一	深澤優子	細田恵莉	壬生善夫
宮澤 信	宮原則子	本木修一	山岸恒夫	(50音順)

2020年7月 初版 / 2025年7月 補訂